

CentreCOM® 8624XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8624XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のユーザーマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl25 (2.2.2-25)

2 未サポート機能

以下の項目は付属のユーザーマニュアル、または最新のコマンドリファレンスに記載がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- BOOTP サーバー

3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl24 から 2.2.2 pl25 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 一度 CPU に高負荷がかかると、その後 SHOW CPU コマンドの表示が不正になっていましたが、これを修正しました。
- 3.2 SNMP トラップの agent-addr フィールドに始点 IP アドレスと異なるアドレスをセットしてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 3.3 ポートミラーリングにおいて、タグなし設定のソースポート上で送受信されたパケットが、ミラーポートにタグ付きでコピーされていましたが、これを修正しました。
- 3.4 STP ドメインの設定後に PURGE STP コマンドを実行するとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.5 ハードウェア IP フィルターにおいて、ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドで MATCH=NONE を指定すると、CREATE CONFIG コマンドで正しく設定が保存できずでしたが、これを修正しました。
- 3.6 ハードウェア IP フィルターにおいて、フィルター条件で指定した TCP/UDP ポート番号と同じ値を特定の位置に含むフラグメントパケットを誤ってフィルターしていましたが、これを修正しました。
- 3.7 インターフェースのリンクアップ / ダウンが発生するタイミングによっては OSPF の機能が停止することがありましたが、これを修正しました。

- 3.8 SET IP ROUTE FILTER コマンドで ACTION パラメーターの値を変更できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.9 Sender IP Address、Target IP Address の両フィールドに同じ IP アドレスがセットされている Gratuitous ARP Reply に対応しました。
- 3.10 DNS リレー機能使用時、DNS リクエストの転送タイミングによってはリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.11 DVMRP (AT-FL-03) において、DELETE DVMRP INTERFACE コマンドで DVMRP インターフェースを削除すると、ADD DVMRP INTERFACE コマンドで同じインターフェースを再度追加できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.12 DVMRP (AT-FL-03) において、Graft メッセージを受信すると、受信ポートの所属 VLAN 内にマルチキャストパケットをフラディングしていましたが、これを修正しました。
- 3.13 IGMP (AT-FL-03) において、DISABLE IP IGMP コマンドで IGMP を無効にしても IGMP Query が送信されていましたが、これを修正しました。
- 3.14 ファイアウォール (AT-FL-02) において、ポート番号を PORT=ALL と指定すると、誤って PORT=85-65525 として扱われていましたが、これを修正しました。
- 3.15 ファイアウォール (AT-FL-02) において、TCP SYN および SYN + ACK パケットのウィンドウサイズを常に 1024 に変更していたため、Kerberos クライアント・サーバー間の TCP セッション確立に失敗していましたが、これを修正しました。
- 3.16 ファイアウォール (AT-FL-02) 使用時、リアルタイムクロックが「AM 00:00:00」頃になると TCP セッションが切断されることがありましたが、これを修正しました。
- 3.17 ファイアウォール (AT-FL-02) 使用時、PROTOCOL=TCP PORT=ALL の条件を持つルールがあると、TCP セッションの確立に失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 3.18 ファイアウォール (AT-FL-02) の攻撃検出機能において、IPSPOOF の基準時間 (TIME パラメーター) が本来の 2 倍になっていましたが、これを修正しました。
- 3.19 VRRP において、SET VRRP コマンドで PRIORITY パラメーターを指定しても、同パラメーターが変更されませんでした。これを修正しました。
- 3.20 SHOW VRRP コマンドで表示される「Up Master Trigger」と「Down Master Trigger」カウンターの値が、トリガーが起動された回数でなくトリガー番号になっていましたが、これを修正しました。
- 3.21 DESTROY DHCP RANGE コマンドを実行するとリポートすることがありましたが、これを修正しました。

3.22 DHCP サーバー機能において、IP アドレスのリース期間が年をまたがった場合、SHOW DHCP CLIENT コマンドで Expiry（リース終了日時）が正しく表示されませんでした。これを修正しました。

3.23 DHCP サーバー機能において、IP アドレスの使用状況を確認するための ARP Request を誤って大量に送出し、ブロードキャストストームを引き起こすことがありましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項

4.1 SNMP MIB オブジェクトについて

 [「ユーザーマニュアル」 2-51 ~ 2-52 ページ](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」](#)

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB II オブジェクト [ipNetToMediaPhysAddress] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dStpPriority] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dBaseType] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot3StatsFrameTooLongs] が正しくカウントアップされません。

4.2 ソフトウェア IP フィルターについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」](#)

ADD (SET) IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

4.3 フォワーディングデータベースについて

 [「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」](#)

1 回目のエージアウトですべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

4.4 ディレクティブブロードキャストアドレス宛のバケットについて

異なるネットワークからディレクティブブロードキャストバケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）の IP アドレスがセットされます。

4.5 DHCP サーバー機能について

 [「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」](#)

- クライアントに割り当てていた IP アドレスを解放した場合、SHOW DHCP RANGE コマンドの表示項目 Free Address（未使用の IP アドレス一覧）に、該当の IP アドレスが重複して表示される場合があります。

- CREATE DHCP POLICY コマンドの INHERIT パラメーターを使って、既存のポリシー（ベースポリシー）を継承する子ポリシー（サブポリシー）を作成した場合、DESTROY DHCP POLICY コマンドでベースポリシーを削除しないよう注意してください。

4.6 DHCP リレーエージェント機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」**

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値（最大転送回数）より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

4.7 ファイアウォール (AT-FL-02) のアクセスリストについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「フィルタールール」**

ファイアウォールルールにアクセスリストを指定した場合、該当のルール以降のルールが無効になります。アクセスリスト以外に複数のルールを併用する場合は、アクセスリストのルール番号に「299」（最終番号）を指定してください。

4.8 IGMP (AT-FL-03) について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」**

- IGMP を有効 (ENABLE IP IGMP) から無効 (DISABLE IP IGMP) に設定しても、Report メッセージがフラッディングされません。この場合は、設定を保存した後、本体を再起動してください。
- IGMP 使用時、NTP などによってシステム時刻が変更されると、IGMP グループエントリーの Refresh time が不正な値になります。この問題を回避するには、NTP を無効にしてください。

4.9 スクリプト機能について

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「スクリプト」**

IF THEN ELSE 文で使用する文字列比較演算子 EQ（等しい）および NE（等しくない）は、文字列の先頭 2 文字しか比較しません。したがって、「AAAA」と「AABB」を比較すると、同一の文字列であると判断してしまいます。この問題を回避するには、先頭 2 文字で違いを判断できるような文字列を使用してください。

4.10 SNMP エージェントについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

SNMP エージェント機能を有効時、コミュニティ名を「public」（すべて小文字）に設定していると、PROTOS TEST の一部試験項目でクラッシュが発生します。これを避けるには、コミュニティ名を「public」以外に設定してください。

4.11 ファイアウォール (AT-FL-02) のスタティック NAT について

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「ファイアウォール NAT」**

スタティック NAT とポリシーフィルターを併用した場合、PRIVATE 側のスタティック NAT 対象ホストから PUBLIC 側のディレクティッドブロードキャストアドレス宛てのパケットにポリシーフィルターが適用されず、結果的にスタティック NAT ルールによる変換が行われません。

5 ユーザーマニュアル・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

5.1 VLAN への IP アドレス設定数について

 [「ユーザーマニュアル」3-45 ページ](#)

本製品の VLAN 設定数は最大 62 個 (default VLAN を除く) ですが、VLAN への IP アドレス設定数は最大 32 個となります。

5.2 スパニングツリードメイン設定数について

 [「ユーザーマニュアル」3-29 ~ 3-36 ページ](#)

スパニングツリードメインの設定数は、最大 16 個となります。

5.3 QoS について

 [「ユーザーマニュアル」3-27 ~ 3-28 ページ](#)

- 本製品は、ユーザープライオリティを 0 ~ 3 の 4 レベルのキューに割り当てることができます。

「ユーザーマニュアル」3-27 ページに「システムは、優先度の高いキュー 3 から順に、すべてのパケットを転送した後、次のレベルのキューの転送を行います。」とありますが、正しくは以下のとおりとなっていますので、訂正してお詫びいたします。

各レベルのキューに割り当てられる帯域は、相対的に最も優先度の低いキューが 0% で、残りのキューが 100% を均等に共有するという割合になっています。割り当てられる帯域は、パケットが同時にキューイングされているキューの数により次のように異なります (数値は一番左が相対的に最もレベルの低いキュー、一番右が相対的に最もレベルの高いキューに割り当てられる帯域を示しています)。

同時に 2 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 100 (%)

同時に 3 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 50 : 50 (%)

同時に 4 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 33 : 33 : 33 (%)

- タグ無しパケットは、ユーザープライオリティ「0」で処理されます。

5.4 ポートトランキングについて

 [「ユーザーマニュアル」3-6 ~ 3-8 ページ](#)

- バージョン 2.2.2 pl11 で、トランクグループに追加されたポートの通信モードが、Full Duplex 固定から SPEED パラメーターで指定した速度のオートネゴシエーションとなりました。バージョン 2.2.2 pl11 以降を搭載した機器とバージョン 2.2.2 pl04 以前を搭載した機器間ではポートトランキングの接続はできませんのでご注意ください。
- バージョン 2.2.2 pl18 で、ポートトランキングと VLAN 間ルーティングを併用した場合に、ルーティングされたパケットに対して負荷分散が行われるようになりました。ただし、送信ポート決定の基準になるのは「IPDEST (終点 IP アドレス)」のみで、その他のパラメーターを指定した場合も、IPDEST を指定したときと同じ動作になります。
- フラディングされたパケットの送信ポートには、トランクグループ内でリンクが一番最初に確立したポートが使用されます。
- ポートトランキングと下記の機能は併用できません (トランクポートでは下記の機能を使用できません)。

- ・ スパニングツリー
- ・ イングレスフィルタリング
- ・ IGMP/IGMP snooping

5.5 リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」について

- バージョン 2.2.2 pl04 で、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」がサポートされたことにより、ステータス LED の表示内容が以下ようになります。

 「ユーザーマニュアル」 1-8, 4-5 ページ

LED	色	状態	表示内容	
FAULT	赤	点灯	本体、またはソフトウェアが故障しています。	
		点滅	1回点滅：	ファンに障害があります。
			3回点滅：	リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていて、本体の電源ユニットに異常があります。
			4回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の電源ユニットに異常があります。
			5回点滅：	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。
消灯	システムに異常はありません。			
RPS	緑	点灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでONが指定されていて、かつ、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されています。	
		消灯	SET SYSTEM RPSMONITORコマンドでOFFが指定されているか、ONが指定されている場合はリダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」のDC電源ケーブルが接続されていません。	
PWR	緑	点灯	本体に電源が供給されています。	
		消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。	

- CentreCOM RPS8000 の状態表示には、LED の表示と CLI での表示があります。どちらも、SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドによるモニターの有効化が必要です。

SET SYSTEM RPSMONITOR={ON|OFF}

ON (有効) /OFF (無効) で指定します。デフォルトは OFF です。OFF の場合、LED や CLI で CentreCOM RPS8000 の状態を表示することはできません。

SHOW SYSTEM コマンドで表示される以下の項目で、本体と CentreCOM RPS8000 の電源状態を表示します。

Main PSU	本体の電源状態です。On (電源オン) /Off (電源オフ) で表示します。
RPS Monitor	CentreCOM RPS8000 のモニターのステータスです。On (有効) /Off (無効) で表示します。

RPS Connected	本製品と CentreCOM RPS8000 の DC 電源ケーブルによる接続状態です。YES (接続) /NO (未接続) で表示します。
RPS PSU	CentreCOM RPS8000 の電源状態です。On (電源オン) /Off (電源オフ) で表示します。

5.6 ADD (SET) USER コマンドについて

 [「ユーザーマニュアル」 2-28 ページ](#)

バージョン 2.2.2 pl04 で、ADD (SET) USER コマンドに LOGIN パラメーターが追加されました。

ADD USER=login-name PASSWORD=password LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO} [other-options...]

SET USER=login-name [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]

SET USER [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]

LOGIN パラメーターは、USER レベルのアカウント (PRIVILEGE=USER) を作成する場合に必須となります。TRUE (ON/YES) を指定した場合は、ユーザーにコマンドラインインターフェイス (CLI) へのログインを許可します。FALSE (OFF/NO) を指定した場合は、ユーザーに CLI へのログインを許可しません。RS-232 経由、および Telnet 経由のログイン行為に対して有効です。

5.7 ポートセキュリティのスタティックエントリー (learn) について

 [「ユーザーマニュアル」 3-12 ~ 3-15 ページ](#)

SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合のスタティックエントリー (learn) の扱いが、バージョン 2.2.2 pl04 で一部変更になりました。

○ 2.1.5 pl02 以前

スタティックエントリー (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、FDB から消去されます。

○ 2.2.2 pl04 以降

スタティックエントリー (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、(設定内容を保存しても) 本体の再起動によって FDB から消去されます。

5.8 RIP バージョン 2 について

 [「ユーザーマニュアル」 3-46 ページ](#)

RIP バージョン 2 の可変長サブネット環境において、ADD (SET) IP RIP INTERFACE コマンドで、RECEIVE パラメーターに BOTH を指定した場合、経路情報を受信することができません。RECEIVE パラメーターには RIP2 を指定するようにしてください。

5.9 メモリー容量について

 [「ユーザーマニュアル」 4-18 ページ](#)

ユーザーマニュアルの「本製品の主な仕様」には、メモリー容量が「4MByte」と記載されていますが、正しくは以下のとおりです。訂正してお詫びいたします。

パケットバッファ容量 : 16MByte
 フラッシュメモリー容量 : 6MByte
 メインメモリー容量 : 32MByte

5.10 DHCP の静的割り当て設定について

「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

DHCP レンジ内の IP アドレスを特定の MAC アドレスに静的割り当てをする場合、以下の点にご注意ください（静的割り当ての設定は ADD DHCP RANGE コマンドで行います）。

- 静的割り当ての対象となる端末（DHCP クライアント）は、DHCP レンジの所属サブネットワークでしか使用できません。本製品は、静的割り当て対象の MAC アドレスに対して、つねに静的な IP アドレスを割り当てようとするため、端末を他のサブネットワークに移動すると、（動的割り当てによる）アドレス設定が正しく行えなくなります。静的割り当てした端末を他のサブネットワークに移動するときは、DELETE DHCP RANGE コマンドで静的割り当てエントリーを削除してください。
- 同一の MAC アドレスに対して複数の静的割り当てエントリーを作成した場合、最後に作成したエントリーだけが有効となります。1 つの MAC アドレスに複数の IP アドレスを静的割り当てしないでください。

6 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2 (J613-M0522-00 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、付属のユーザーマニュアルと上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、ホームページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0522-00 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

コマンドリファレンス 2.2 (J613-M0522-00 Rev.C) へのリンクはこちら：

<http://www.allied-teselis.co.jp/support/list/switch/8624xl/manual.html>